

2024 年度 事業報告書

2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで

学校法人 桑沢学園

目次

I. 学校法人の概要

(1) 建学の精神等	1
1. 創立者 桑澤洋子	
2. 設置校 東京造形大学の建学の精神及び使命	
3. 設置校 専門学校桑沢デザイン研究所の教育の趣旨	
(2) 沿革	2
1. 法人及び設置校の沿革	
2. 歴代理事長・学長・所長	
(3) 設置する学校・学部・学科等	4
(4) 学生数の状況	5
(5) 教職員に関する情報	5
(6) 役員に関する情報	6
(7) 役員・評議員報酬に関する情報	6
(8) 責任限定契約・役員賠償責任保険契約の状況	7
(9) 内部統制に関する対応	7

II. 事業の概要

(1) 中期計画テーマに基づく事業実施状況	8
1. 【埋蔵資源発掘】表現を通じて私と他者を発見する造形教育の実践	
2. 【森林公園計画】対話が生まれる自由闊達な空間づくり	
3. 【見える化】教育成果の社会発信と知識循環	
4. 【やりがい・働きがい】多様な価値観を基盤にした仕事環境づくり	
5. 【万が一のそなえ】社会変動に迅速に対応するリスク管理	
(2) その他の事業実施状況	15

III. 財務の概要

(1) 資金収支、事業活動収支、貸借対照の状況	16
(2) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策	16

I. 学校法人の概要

(1) 建学の精神等

1. 創立者 桑澤洋子

本学園の創立者 桑澤洋子は、昭和初期から建築・室内設計・服飾等のデザインジャーナリズムの世界で活躍していました。その中で、建築家グロピウスによって 1919 年にワイマールに設立された、造形芸術の総合学校「バウハウス」の存在を知り、その影響を強く受けます。

桑澤洋子は、機能性や合理性を追求したデザイン活動をすすめる過程で、デザインの総合的な基礎教育と専門教育の重要性を強く実感し、教育機関の実現のため努力を重ね、1954 年、各界気鋭の教育者、芸術家、デザイナーたちの協力を得て、当時としては画期的なデザインの専門学校「桑沢デザイン研究所」を設立しました。さらに高度な造形教育を追求する場として 1966 年には「東京造形大学」を設立し、学長に就任しました。

試行錯誤をおそれない、しなやかさの中にも強さを持った独特の教育方法で多くの人材を育て、卒業生たちは広い領域で活躍しており、その業績は高く評価されています。

2. 設置校 東京造形大学の建学の精神及び使命

【建学の精神】

社会をつくり出す創造的な造形活動の探究と実践

東京造形大学は、デザインや美術の創作活動を時代の精神や社会の創造に深く結び付いたものとしてとらえ、それら造形活動を広く社会的な観点から探究し、進取の気概を持って創造的に実践することを建学の精神としています。

【使命】

1. デザイン及び美術の諸領域における優れた専門的知識・技術の教授研究
2. 社会全体を広く総合的な視点でとらえ、社会的問題の解決に向けて取り組むことのできる人材の育成
3. 造形活動を通じた文化の創造と社会の発展への貢献

3. 設置校 専門学校桑沢デザイン研究所の教育の趣旨

【教育理念】

未来へ向かっての人間の精神的・物質的両面からの要求に応える人材の育成

専門学校桑沢デザイン研究所は、1954 年の創立以来、教育理念（教育目的）として「未来へ向かっての人間の精神的・物質的両面からの要求に応える人材の育成」を掲げています。人々の生活が多様化し、また不断の変化を続ける 21 世紀の世界のなかで、この目標を達成するには、デザインという専門領域を通じて、新しい明日の生活を具現化することのできる能力を

身につける必要があります。現実の制約や条件を創意の糧に転化し、自分の習得した技術や感性を使って独創的なデザインのできる人、さらに新しい社会の創造に加担できる人物、このような人材の育成を本校の教育指導上の具体的な目標としています。

(2) 沿革

1. 法人及び設置校の沿革

1954年	4月	20日	東京都港区青山北町に桑沢デザイン研究所設立
1957年	12月	7日	学校法人桑沢学園設立認可
1958年	4月		桑沢デザイン研究所新校舎使用開始
1966年	1月	26日	東京造形大学造形学部設置認可
	4月	1日	東京都八王子市元八王子町に東京造形大学開設
1976年	12月	9日	専門学校桑沢デザイン研究所設立認可
1981年	4月	1日	東京造形大学新教育運営制度発足
1990年	6月		八王子市宇津貫町に東京造形大学の新しいキャンパス着工
1991年	12月	20日	東京造形大学臨時定員増認可(1992～1998年)
1992年	4月	1日	東京造形大学宇津貫キャンパス部分開校 東京造形大学造形計画専攻、比較造形専攻新設
1993年	4月	1日	東京造形大学宇津貫キャンパス移転、全面開校
1998年	4月	1日	東京造形大学新教育課程実施、教育運営制度を6専攻に改編
2003年	4月	1日	東京造形大学造形学部の学科構成を改編 デザイン学科9専攻領域、美術学科2専攻領域
2004年	11月	30日	東京造形大学大学院造形研究科設置認可
2005年	4月	1日	東京造形大学大学院造形研究科造形専攻開設(修士課程) 東京造形大学大学院棟(12号館)使用開始 専門学校桑沢デザイン研究所渋谷新校舎使用開始 専門学校桑沢デザイン研究所基礎造形専攻(附帯教育)開講
2010年	9月	1日	東京造形大学CSプラザ(10号館)使用開始
2011年	4月	1日	東京造形大学教育課程改編、学部構成再編 デザイン学科8専攻領域、美術学科2専攻領域
2015年	10月	30日	東京造形大学大学院造形研究科造形専攻博士後期課程設置認可
2016年	4月	1日	東京造形大学大学院造形研究科造形専攻博士後期課程開設 東京造形大学大学院造形研究科造形専攻修士課程に 造形教育研究領域を新設
2018年	4月	1日	東京造形大学大学院棟(13号館)使用開始
2020年	4月	1日	専門学校桑沢デザイン研究所基礎デザイン専攻(附帯教育)開講
2021年	4月	1日	専門学校桑沢デザイン研究所夜間部の教育課程を改編し、専攻デザイン科に改称
2022年	3月	30日	専門学校桑沢デザイン研究所 渋谷区神南に新校舎取得

2. 歴代理事長・学長・所長

●学校法人桑沢学園 理事長

氏名	在任期間
桑澤 洋子	1957年12月～1974年5月
氣賀 健三	1974年6月～1994年5月
山本 哲也	1994年6月～1998年5月
小田 一幸	1998年6月～2014年10月
有吉 徹	2014年10月～2015年5月
田口 浩一	2015年6月～2019年5月
山際 康之	2019年7月～

●東京造形大学 学長

氏名	在任期間
桑澤 洋子	1966年1月～1973年4月
阿部 公正	1973年4月～1973年6月
明石 一男	1974年4月～1978年1月
宮田豊太郎	1978年4月～1980年3月
鈴木 二郎	1980年4月～1984年3月
豊口 協	1984年4月～1992年3月
海本 健	1992年4月～2000年3月
白澤 宏規	2000年4月～2008年3月
諏訪 敦彦	2008年4月～2013年7月
有吉 徹	2013年12月～2017年3月
山際 康之	2017年4月～2025年3月
生嶋 順理	2025年4月～

●専門学校桑沢デザイン研究所 所長

氏名	在任期間
桑澤 洋子	1954年4月～1974年5月
根田 みさ	1975年2月～1981年3月
高山正喜久	1981年4月～1987年3月
栄久庵憲司	1987年4月～1990年3月
氣賀 健三	1990年4月～1993年3月
横山 徳禎	1993年4月～1996年3月
市瀬 昌昭	1996年4月～2005年3月
小田 一幸	2005年4月～2008年3月
内田 繁	2008年4月～2011年9月
浅葉 克己	2011年10月～2020年3月
工藤 強勝	2020年4月～2023年1月
佐藤 竜平	2023年4月～

(3) 設置する学校・学部・学科等

東京造形大学

所在地：〒192-0992 東京都八王子市宇津貫町 1556

学部・研究科	学科・課程	専攻領域・専攻（研究領域）
大学院造形研究科	博士後期課程	造形専攻 (デザイン研究領域・美術研究領域・造形教育研究領域)
	修士課程	造形専攻 (デザイン研究領域・美術研究領域・造形教育研究領域)
造形学部	デザイン学科	グラフィックデザイン専攻領域
		写真専攻領域
		映画・映像専攻領域
		アニメーション専攻領域
		メディアデザイン専攻領域
		室内建築専攻領域
		インダストリアルデザイン専攻領域
		テキスタイルデザイン専攻領域
	美術学科	絵画専攻領域
		彫刻専攻領域

専門学校桑沢デザイン研究所

所在地：〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-4-17

課程	学科等	専攻
デザイン専門課程	総合デザイン科 (昼間部・3年制)	ビジュアルデザイン専攻
		プロダクトデザイン専攻
		スペースデザイン専攻
		ファッションデザイン専攻
	専攻デザイン科 (夜間部・2年制)	ビジュアルデザイン専攻
		プロダクトデザイン専攻
		スペースデザイン専攻
		ファッションデザイン専攻
附帯教育	基礎造形専攻（夜間部1年制）	
	基礎デザイン専攻（夜間部1年制）	

※専攻デザイン科ファッションデザイン専攻は、2025年度以降学生募集停止

(4) 学生数の状況

東京造形大学

2024年5月1日現在

学部・研究科	学科・課程	入学定員	収容定員	学生数
大学院造形研究科	博士後期課程	5名	15名	11名
	修士課程	50名	100名	129名
造形学部	デザイン学科	285名	1,168名	1,433名
	※3年次編入	14名	28名	
	美術学科	95名	390名	405名
	※3年次編入	5名	10名	

専門学校桑沢デザイン研究所

2024年5月1日現在

課程	学科等	入学定員	収容定員	学生数
デザイン専門課程	総合デザイン科 (昼間部・3年制)	200名	560名	569名
	専攻デザイン科 (夜間部・2年制)	160名	320名	247名
附帯教育	基礎造形専攻 (夜間部1年制)	40名	40名	45名
	基礎デザイン専攻 (夜間部1年制)	40名	40名	45名

※総合デザイン科の2022年度入学定員は160名

(5) 教職員に関する情報

2024年5月1日現在

区分	専任教員数	専任職員数
法人部門	—	5名(役員を除く)
東京造形大学	50名	56名(嘱託を含む)
専門学校桑沢デザイン研究所	17名	18名

※2024年度学校法人基礎調査に基づく

(6) 役員に関する情報

2025年3月31日現在

理事（8名）		*は外部理事		評議員（19名）	
理事長	山際 康之	評議員	山際 康之		
理事	佐藤 竜平	評議員	佐藤 竜平		
理事	生嶋 順理	評議員	岩瀬 大地		
理事	遠藤 毅	評議員	海士 智也		
理事	御手洗 陽	評議員	川辺 英明		
理事	大迫 修三 *	評議員	南澤 義晃		
理事	大橋 正芳 *	評議員	和田 敏克		
理事	吉田 亜世美 *	評議員	高橋 清司		
監事（2名）		評議員	御手洗 陽		
監事	川口 均	評議員	守屋 秀之		
監事	古山 正文	評議員	大豆生田 守		
備考 理事 定数 9～13名 監事 定数 2名 評議員 定数 20～30名		評議員	田中 敬二		
		評議員	生嶋 順理		
		評議員	石間 裕		
		評議員	江口 響子		
		評議員	遠藤 毅		
		評議員	大橋 正芳		
		評議員	小林 貴史		
		評議員	濱井 聡		

※2025年3月24日に理事（評議員を兼任）1名が退任（逝去）したため、2025年3月31日現在の理事及び評議員の定数にそれぞれ1名欠員が生じています。

(7) 役員・評議員報酬に関する情報

役員・評議員の報酬額について、2024年度の改正はありません。なお、改正私立学校法が2025年4月1日に施行されることに伴い、新たに法定される役職名にあわせて役員報酬規程の改正、および理事と評議員の兼任は不可と法定されることにあわせて評議員報酬規程の軽微な文言を改正することについて、理事会・評議員会で確認しています。

(8) 責任限定契約・役員賠償責任保険契約の状況

責任限定契約

私立学校法に基づき、2020年4月1日より責任限定契約を締結しています。

1. 対象役員
非業務執行理事、監事
2. 契約内容の概要
非業務執行理事及び監事が、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金1円以上であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度としています。
3. 契約によって職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置
契約内容に、当該役員が職務を行うにあたり善意でかつ重大な過失がないときに限る旨の定めをしています。

役員賠償責任保険契約

私立学校法に基づき、理事会決議により、2020年4月1日より役員賠償責任保険に加入しています。

1. 団体契約者
日本私立大学協会
2. 被保険者
(ア) 記名法人 学校法人桑沢学園
(イ) 個人被保険者 理事、監事等
3. 補償内容
(ア) 役員（個人被保険者）に関する補償
法律上の損害賠償金・争訟費用等
(イ) 記名法人に関する補償
法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等
4. 支払対象とならない主な場合（職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置）
法律違反に起因する対象事由等
5. 保険期間中総支払限度額
10億円

(9) 内部統制に関する対応

私立学校法の改正に基づき、2025年4月1日付で「学校法人桑沢学園 内部統制システム整備の基本方針」を制定し、対応を進めることについて、理事会・評議員会で確認しています。

II. 事業の概要

学校法人桑沢学園は、2020年度に策定した以下の「中期計画（Road to 2025：2021-2025）」に基づき、持続可能な経営による造形教育の社会寄与を理念として、年度ごとの事業活動を行っています。



中期計画テーマ

1. 【埋蔵資源発掘】表現を通じて私と他者を発見する造形教育の実践（=教育研究）
2. 【森林公園計画】対話が生まれる自由闊達な空間づくり（=学生支援、キャリア支援）
3. 【見える化】教育成果の社会発信と知識循環（=広報、国際交流、社会連携）
4. 【やりがい・働きがい】多様な価値観を基盤にした仕事環境づくり（=労務）
5. 【万が一のそなえ】社会変動に迅速に対応するリスク管理（=リスク管理）

ここでは、中期計画（Road to 2025）に基づき 2024 年度事業計画に記載した事業及びその他事業について実施・進捗状況を示します。

(1) 中期計画テーマに基づく事業実施状況

1. 【埋蔵資源発掘】表現を通じて私と他者を発見する造形教育の実践（＝教育研究）

● 東京造形大学

- (1) 2026 年度以降の学部教育課程改編にあたり、部会ヒアリングや拡大教育運営会議での意見交換の結果を参考に具体的な構想案の検討を実施する。

部会ヒアリング及び拡大教育運営会議を通して教育課程に関する意見を集約し、本学の教育課程の強みを再認識するとともに時代にあわせた科目の開講や教育課程の改善点についてまとめ、具体的な構想案を検討しました。

- (2) 修士課程における新教育課程改編及び教育の質向上に関する検討を実施する。

修士課程の教育課程について、部会ヒアリングを通して意見を集約しました。また、造形プロジェクト科目に関する分科会を開催し、造形プロジェクト科目の成り立ちを確認するとともに、今後の方向性について検討しました。

- (3) 教務システム及び学生ポータルシステム CampusNet のバージョンアップにあわせて業務の運用を見直し、授業運営支援の強化を検討する。

バージョンアップによるシステム構成の変更に伴い、複数担当の授業において教務システムを介して複数の教員がそれぞれ成績を登録できるようになるなど、利便性が向上しました。

- (4) 科学研究費補助金に申請した研究者へのインセンティブ制度を導入し、研究の質向上及び申請数・採択数の増加を図る。

科学研究費補助金に申請した研究者へのインセンティブ制度の導入により、科学研究費補助金の申請件数が前年比 50%増となりました。

● 専門学校桑沢デザイン研究所

- (1) 情報技術の進展を背景として、時代と呼応する柔軟な分野及び専攻の設置についての可能性を検討する。

産業構造、技術革新、生活様式の影響を受けて、デザイン業界ごとにその趨勢は変化していることを念頭に、運営協議会をはじめとする各種会議体において検討を行いました。

- (2) 昼間部総合デザイン科の原点に立ち返り、既存のデザイン領域や分野の連携を促進する取り組みを行う。

生成 AI の普及、生産人口の減少などを通して、社会が求める人材像も急速に変化している中、「基礎能力のスキリング」を重視し、学生が将来デザイナーとして長期かつ広汎に働けることを念頭にデザイン領域間の連携について検討をしました。

- (3) 夜間部専攻デザイン科の教育課程を通して、社会人でも受講可能な職能教育を提供していく。
複雑化した今日の社会状況に対応できるデザイン分野の人材育成を目的に、2021年4月に専攻デザイン科として新たな教育課程に改編しましたが、社会人により一層求められる環境構築の可能性を調査しました。
- (4) 夜間部附帯教育を通して、幅広い層へのデザイン教育を提供する。
アップスキリングやリスキリングの内容も含む、リカレント教育の社会的ニーズが大きいことから既存の附帯教育に加えて、別科「Kuwasawa Design Studio」を開設することとしました。

2. 【森林公園計画】対話生まれる自由闊達な空間づくり（=学生支援、キャリア支援）

● 東京造形大学

- (1) 学生にとって相談しやすい体制として配置し、二年目に入ったスクール・コーディネーター制度の確実な定着を図る。教務課、カウンセラー、医務室、校医との連携体制を維持し、問題の早期解決、休学者・退学者の予防につなげる。
スクール・コーディネーターを学生相談の要として位置づけ、より柔軟な対応を定着させました。授業配慮願について継続確認のための連絡をコーディネーターに移管し、現状の把握や要望にきめ細かく応えることに繋がりました。
- (2) 図書館内グループ学習室の設置・運用による図書を通じた対話づくり、及び学生が利用できる電源コンセントの増設による新たな学生の居場所の創出を行っていく。
図書館を柔軟に利用できるよう、「グループ学習室」の設置やカウンター席に電源コンセントを増設するなどの環境整備の実施により学生の利便性が向上しました。
- (3) 低学年を対象としたキャリア支援を充実することにより、卒業後の進路に向けた意識付けの強化を図る。
年間を通して開催する対面・オンラインによる就職対策講座（全22回）、ポートフォリオ作成指導講座（全7回）、業界研究講座（全3回）等のうち、低学年を対象としたキャリア支援講座を13回実施しました。新たに「今から考える『お金』と『仕事』講座」を実施するとともに、「1・2年生から始める仕事研究講座」を複数回開催するなど支援を拡充しました。また、「4年生によるインターンシップ報告会」及び「4年生のポートフォリオ等を見る会&体験談を聞く会」等のイベントを低学年の学生へも積極的に周知し、インターンシップや就職活動の具体的な取り組みを学べる機会と、自由に情報交換ができる場を設けました。CSホール前にて「就活用ポートフォリオ展示会」を開催し、卒業生の就職活動用ポートフォリオの展示と就職課の利用方法の案内を通じて、低学年の学生が卒業後の進路を意識し、就職課を活用するよう働きかけました。
- (4) キャリア支援室のレイアウト変更を実施し、より一層学生が利用・相談しやすい環境づくりを行う。

キャリア支援室のレイアウト変更を8月下旬に完了しました。ポートフォリオが手に取りやすく、安全性にも配慮した棚を設置し、室内環境を快適で明るく整えました。さらに学生の利用を促進するため、今後も効果的な活用方法を検討していきます。

- (5) 新しい敷地における遊歩道のルート計画と整備についての検討を進める。

新しい敷地を含む大学緑地内のナラ枯れ樹木の間伐や下草刈りなどの管理を進め、遊歩道を整備するための安全対策を行いました。今後も安全対策を進め、整備計画や運用方法の検討を行います。

● 専門学校桑沢デザイン研究所

- (1) 新教育施設を学生と社会をつなぐ取り組みに活用する。

新教育施設のイベントスペースを使用し、専門学校桑沢デザイン研究所創立70周年記念の一環として専任教員の研究成果や授業において学生が取り組んだ成果物を展示することで、教育研究を社会に発信しました。

- (2) 老朽化した空調設備をはじめ、適切な教育環境を維持するため、施設設備の年次計画による改修を行う。

空調工事について、当初の5年次計画を変更し、2024年度内に対応することとしていた工事を完了しました。また、施設設備の改修計画については次年度に向けて整備を進めています。

- (3) 奨学金制度再編の検討を行う。

高等教育の修学支援新制度により、経済上修学困難な学生への支援が増大していることから、学業優秀者を支援する学内奨学金制度を拡充しました。

● 学校法人桑沢学園

- (1) 渋谷新教育施設の改修及び運用体制の整備を継続して行う。

2023年度より使用を開始した新教育施設について、2024年度前半に第二期工事を行い、今後、1階及び地階を、教育成果の社会発信ができるスペースとすることに向けて、東京造形大学及び専門学校桑沢デザイン研究所の両設置校において、試験的に利用を開始しました。2階から4階は、これまでと同様に、専門学校桑沢デザイン研究所の教室及び学生ラウンジとして使用しています。

- (2) 大学キャンパス整備計画に伴う2号基本金組入計画の期間変更の検討を行う。

東京造形大学キャンパスの敷地を貫通する都市計画道路の敷設による校地環境の変化や、既存建物の老朽化に備えてコンストラクションマネジメントを導入し、キャンパス整備計画を見直しました。この計画見直しに伴い、2026年度に新校舎の着工を予定していた組入れ計画を2034年度まで延長し、「森の中の美大」構想の実現に向けて組入れを実行していくこととしました。

- (3) 施設計画と連動した予算編成の実行と定着化を推進する。

2024年度予算については、東京造形大学の長期修繕計画の策定調査及び専門学校桑沢デザイン研究所の複数年にわたる空調設備改修など、両設置校及び法人部門において中期計画方針に沿った事業計画及び予算編成を行いました。引き続き次年度以降も中期計画の方針に沿って、各年度の事業計画に基づく予算編成を行います。

3. 【見える化】教育成果の社会発信と知識循環（＝広報、国際交流、社会連携）

●専門学校桑沢デザイン研究所

- (1) 開校70周年を迎えるにあたって、一年間を通して様々な形でイベントを開催する。

専門学校桑沢デザイン研究所の創立の際に影響を受けた「バウハウス」で開催された「Metallisches Fest（金属祭）」に着想を得たイベントの開催をはじめとして、国内外のデザイナーによる講演会や作品展等を20回以上開催しました。

- (2) 「卒業生作品展」など、展覧会を通して教育成果の情報を発信していく。

「卒業生作品展」の作品を、本校公式WebサイトをはじめInstagramやYouTubeなどのSNS等を利用して学外に広く情報発信しました。これにより、ブランド力を高め、学生募集、企業からの求人への活用を図るとともに、本校での学びの集大成として教育成果が発信できる場となりました。

- (3) 学外連携などを積極的に取り入れ、社会とつながる学習機会の設置についての可能性を検討する。

障がいのある方が描いた文字や絵から、本校学生がフォントやパターンデータを制作する「シブヤフォント」は長年にわたって取り組んできた結果、授業科目に発展したことをモデルケースとして、授業科目の内容に企業等との学外連携を導入する可能性について検討を行いました。

4. 【やりがい・働きがい】多様な価値観を基盤にした仕事環境づくり（＝労務）

●東京造形大学・専門学校桑沢デザイン研究所・学校法人桑沢学園

- (1) 働き方の改善活動や社会の変化や価値の多様化に即した新しい働き方のモデルを中・長期的な視点で構想し実現に向けて、桑沢ワークシフトプロジェクトを推進していく。

2021年度に職員の職場環境改善を目的として発足した「桑沢ワークシフトプロジェクト」は、2024年度で活動4年目を迎え、引き続き推進を図りました。2024年度は、働きやすい環境の整備の一環として、「オフィスカジュアル推進に関する指針」を作成し、全職員への周知を行いました。また、「他部署業務に対する理解の促進」および「職員間の交流を深め、チームワークを向上させる」ことを目的に、東京造形大学・専門学校桑沢デザイン研究所・学校法人桑沢学園法人事務部の若手職員29名を対象とした業務情報交換会を実施しました。また、

東京造形大学の入職 2 年以内の職員が主導して「キッチンカーの学内誘致」を企画し、実施しました。この企画は、2025 年度から定例の取り組みとして、東京造形大学庶務課の所管により継続して実施する予定です。

● 専門学校桑沢デザイン研究所

- (1) 前例踏襲やルーティンにとらわれない、より合理的な働き方を実施していく。

タブレットやPCを利用した学生の出欠管理システムの導入や各種会議のオンラインの活用、会議資料のペーパーレス化により、開催・準備にかかる労力及びコストの削減を実現しました。また、Web 出願システムの改良により、受験生が入学手続き書類を自身で出力できる方式を導入しました。これにより、書類の発送業務に伴う労力及びコストの削減を実現しました。

● 学校法人桑沢学園

- (1) 税制改正（インボイス制度・電子帳簿保存法）に対応した新たな業務フローの定着化を図るとともに、既存の経理処理関連システムの見直しと新システム導入の検討を行う。

経理処理関連システム導入に向け、両設置校の庶務課と法人部門の経理財務課の担当者による検討チームを立ち上げ、各部門における課題の洗い出しを行い、現状の課題や問題を部門間で共有しました。次年度以降も引き続き、業者へのヒアリングやシステムの選定など、新システム導入に向けての検討を進める予定です。

- (2) 年末調整業務に関する Web システムの導入に向けて調査・検討及び導入を進める。

前期中から年末調整業務に関する Web システム導入の準備を進め、学内周知、学内説明会などを経て、11月にシステムを導入して運用を開始しました。これまでの所定様式の紙を用いた申請から Web による申請に方法が変わったことで、申請を行う教職員の手間の削減や利便性の向上に寄与するとともに、給与業務担当者の負担も大幅に削減され、業務の効率化を達成することができました。

5. 【万が一のそなえ】社会変動に迅速に対応するリスク管理（＝リスク管理）

● 東京造形大学

- (1) 有線・無線ネットワーク環境の経年劣化による故障リスクが高い部分の置き換えを行い、インフラ環境の安定稼働および性能向上を図る。併せて、セキュリティリスク回避や性能向上のため、各種システムのサーバーのバージョンアップやリプレースを推進する。

有線・無線ネットワーク環境の経年劣化による故障リスクが高い部分の置き換えを行い、インフラ環境の安定稼働および性能向上を図りました。併せて、セキュリティリスク回避や性能向上のため、クライアント端末およびサーバーのバージョンアップやリプレースを順次行っています。

- (2) 建物老朽化の対応として適切な修繕を行うための長期修繕計画策定に向けた調査を実施する。

大学敷地内の建物の構造・外壁・設備面の劣化調査を行い、老朽化状況の全体把握と修繕費用の概算を行いました。長期修繕計画としてより具体化するための検討を進めています。

- (3) 都市計画道路の敷設及び将来的な建物老朽化を踏まえた整備計画策定のためコンストラクションマネジメント契約を継続する。

建物老朽化調査と併せて、都市計画道路の敷設を踏まえた 35 年先までの整備ステップを検討しました。建物の移転や修繕により大学の教育・研究活動に支障が出ないよう整備計画の策定を進めます。

- (4) 老朽化による大規模停電のリスク解消のための構内高圧電源ケーブルの更新を実施する。

大学構内の高圧電源ケーブルの更新を、最も緊急性と重要度の高い大学入口から 3 号館までの範囲において実施しました。今後も学内の主要な電源ケーブルの更新を進める予定です。

● 専門学校桑沢デザイン研究所

- (1) 18 歳人口減少に伴う経営状態の変動に備え、経営安定化に向けた支出構成比の見直しを検討する。

経営の安定性を確保するため、昨年に引き続き専門学校の全国平均などのデータをもとに支出構成比の評価や修正のための検討を行いました。本年度はこれをもとに固定費を中心にコストの削減を行いました。

● 学校法人桑沢学園

- (1) 私学法改正に伴う寄附行為改正の認可申請および関連規程の整備を行う。

私立学校法の改正に伴う寄附行為改正の認可申請を行い、2025 年 2 月 17 日付で文部科学大臣の認可を取得しました。寄附行為の改正に伴い、関連する学内諸規程の見直しを行い、2025 年 4 月 1 日に向けて、学内の運用体制を整備しました。

- (2) 2025 年度以降の資産運用方針の検討と策定を進める。

2022 年度から 3 年間を目途に、これまで本学園が行ってきた債券運用とは異なる方法による試験的運用を行ってきました。2024 年度は試験的運用の 3 年目として保有した金融商品の検証を行いました。年度末までの状況を把握した上であらためて運用の検証を行い、2025 年度中に本格的な運用方針の策定に向けた具体的な準備を進めます。

- (3) 社会行動規範強化の仕組みづくりとして、大学・研究所で生じている各種の課題を学園内で共有すると同時に、法務課が軸となり、ルール・プロセスの整合を図るとともに、問題の発生を未然に防ぐための対策を両設置校の各関連委員会と協力して進めていく。

東京造形大学及び専門学校桑沢デザイン研究所で生じている各種の課題を学園内で共有し、コンプライアンス及びハラスメントの事案への対応を中心に見据え、制度設計の見直しのため、両設置校の「コンプライアンス推進規程」及び「ハラスメント防止等に関する規程」の改正を行いました。

(2) その他の事業実施状況

● 東京造形大学

- (1) 学内における栄養補給の充実策として、ザバスプロテイン専用の自動販売機を設置し、市価の半額程度での割引価格にて提供しました。
- (2) 加盟する「大学コンソーシアム八王子」や「さがまちコンソーシアム」等と連携し、3件の市民講座の提供等を行いました。
- (3) 学術研究の更なる推進を図るために、「教育研究助成金制度」を継続的に運用し、8件の助成事業を実施しました。
- (4) 民間企業や地方公共団体などからの委託を受け、教員などが行う受託研究等事業を4件、教育研究や地域貢献につながる社会連携事業（継続中のものを含む）を39件実施し、本学の教育研究資源を活かした成果を社会に発信しました。
- (5) 「東京造形大学附属美術館公式 facebook」「東京造形大学附属美術館公式 instagram」「東京造形大学附属美術館公式 X」「東京造形大学附属図書館公式 X」を通じて、本学の活動を広く学内外に発信しました。
- (6) 2027年度受審予定の大学機関別認証評価を見据え、第4期の評価項目に合わせた「自己点検・評価報告書2024」を発行し、教職員への配付と本学公式Webサイトへの掲載を行いました。
- (7) 広報誌「iizo」の制作において、読者アンケートを基に企画内容を検討し、ステークホルダーへ向けた情報発信を強化しました。2024年10月の5号発送時には「教育振興基金ご寄付のお願い」を卒業生宛てに同封し、開学60周年に向けた寄付金募集活動の充実を図りました。
- (8) 高等学校教諭対象の「学校推薦型選抜（指定校制）入試説明会」を開催し、本学の入学試験の概況や指定校委嘱の方針及び選考方法などについて説明しました。
- (9) 2025年2月14日（金）から2月27日（木）までの2週間、「アート・イン・ギャラリー原宿」にて、声優・梶裕貴氏の音声AIプロジェクト「そよぎフラクタル」と本学がコラボレーションした『梵そよぎと未来のクリエイター』展を開催しました。多くの学生が、キャラクターやコンセプトに触発された平面デザイン、立体デザイン、イラストレーション、アニメーション、実写映像、絵画などのジャンルを横断した作品を制作し、200点以上の作品を展示しました。
- (10) 教育環境の整備、専門性の強化及び研究活動を支援するため、紗張り機、レーザー加工機などを最新機種へ更新し、視聴覚教室の高品位プロジェクタ及び音響設備などの刷新を行いました。また、映画・映像専攻演習室のiMac42台、及び7号館4階のコンピュータ教室のiMac58台を更新しました。

Ⅲ. 財務の概要

(1) 資金収支、事業活動収支、貸借対照の状況

資金収支、事業活動収支、貸借対照等の状況は、学校法人桑沢学園 Web サイト内「学園に関する情報公開」のページに掲出している各年度の決算報告書をご参照ください。

<https://www.kuwasawa.ac.jp/report.html>

(2) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

2024 年度は、本学園の中期計画 (Road to 2025) に基づき着実に事業に取り組んできました。

東京造形大学においては、学部教育課程改編の具体的検討、学生にとってより利用しやすく相談しやすい場を目指してのキャリア支援室改修、対面活動を重視した学生募集活動、教育成果の社会発信と知識循環としての「見える化」の一環として実施した、そよぎフラクタル×東京造形大学「梵そよぎと未来のクリエイター」のコラボレーション展示等の施策を実行しました。

専門学校桑沢デザイン研究所においては、開校 70 周年を記念した講演会及び各種イベントの実施、既存の夜間部附帯教育に加え、2025 年度に別科「Kuwasawa Design Studio」を開設することを決定し、開設準備を進めました。

法人部門においては私立学校法の改正に伴う寄附行為改正の認可申請と学内の運用体制の整備を進め、また、年末調整の Web 申請システム導入や経理処理関連システム導入に向けた検討など業務効率化のための各種施策を実行しました。

その結果、今年度決算において、事業活動収支計算書における教育活動収支差額は 1 億 9,421 万円、経常収支差額は 4 億 3,272 万円となり、単年度収支である基本金組入前当年度収支差額は、3 億 688 万円となりました。

次年度以降の課題としては、東京造形大学の現キャンパスが移転から 30 年以上が経過しており施設設備の中長期的な修繕計画の立案が急務であること、専門学校桑沢デザイン研究所においては、2025 年度に実施する別科の立ち上げ及び附帯教育も含めた夜間部の教育機関・職能教育提供機関としての在り方の検討、法人部門については 2022 年に取得した新教育施設のさらなる活用などが挙げられます。これらの課題については、各部門において課題に対する検討を行うとともに両設置校と法人部門が連携しながら施策の実施を進めていきます。

今後も、学校法人として安定的かつ持続的な運営を行うために、学生生徒等納付金、受験料収入の安定的確保はもとより、計画的な基本金組入や、資産運用、減価償却引当資産の組入等、強固な財務体質を構築するよう努めていきます。

以上